東京　明治十六年十月三十日　火曜日　第五百四號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○内務省甲第二十三號
來十七年第一回醫術開業試驗擧行ノ地方及其期日左之通相定候條志願之者ハ本年第三十四號布達ニ準據シ其願書ニ試驗ヲ受ケントスル望ノ場處ヲ記載シ本年十二月中居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ此旨告示候事

明治十六年十月二十九日　内務卿山田顯義

三月上旬	東京府下東京
四月中旬	愛知縣下名古屋
同	宮城縣下仙臺
同	岡山縣下岡山
五月中旬	大坂府下大坂
同	愛媛縣下松山
同	青森縣下弘前
六月中旬	石川縣下金澤
同	長崎縣下長崎

○大藏省告示第百九號
一紙幣三百七万八千九百七十二圓四十五錢也
右ハ減債方法ニ據リ支消セシ紙幣幷損傷紙幣之合計ニシテ本月十五日ヨリ同廿一日マテニ當省印刷局構内ニ於テ會計檢査院官吏立會燒棄候條此旨告示候事

明治十六年十月廿九日　大藏卿松方正義

時事新報

日本ノ用終レリ

嘉永開國以來我外交ノ沿革ヲ案スルニ舊幕政府ノ末年ニ至ルマデハ我レハ固ヨリ外國ノ事ヲ知ラズ彼レモ亦我國情ヲ知ラズ互ニ相知ラズシテ互ニ相疑ヒ我レヨリ暴ヲ以テ接スレバ彼レ亦暴ヲ以テ來リ些少ノ事故ヨリシテ不測ノ禍ヲ招キタルモノ多シ生麥及ヒ下ノ關ノ償金ノ如キ是レナリ然ルニ王政維新ノ一擧大ニ我國人ノ心事ヲ改メ國是ヲ開國ト一定セシヨリ外人モ亦交際ノ面目ヲ新ニシ頻リニ我文明開進ノ主義ヲ贊成スルニ至リシハ我外交沿革ノ一段落トシテ見ル可シ固ヨリ此際ニモ双方ノ間ニ困難ナキニ非ズ泉州堺ニテ佛人ヲ襲撃シタルヿアリ京都ニテ英公使參内ノ途中ニ暗殺ヲ試ミタルヿアリ其他樣々ノ暴動又失禮ノ爲ニ或ハ和親ノ交際モ如何ヤト危懼スルモノ少ナカラザリシカド毎度平穩ニ局ヲ結ビタル其有樣ヲ舊幕政府ノ時代ニ比スレバ實ニ天淵ノ相違ナリキ夫レ是レノ事情ヲ考ルニ舊幕府ノ時ハ外人皆威力ヲ以テ我日本ヲ威嚇セントシタル者ガ維新以來ハ文明ヲ以テ誘導スルノ方向ニ變シタルガ如シ前後ノ變化不可思議ナル者ト云フ可シ當時我國ニ識者アリ竊ニ此事相ヲ視察シテ謂フク近時西洋人ガ我レニ接スルノ擧動ハ決シテ偶然ニ非ズ假令ヒ彼ノ人々ガ相互ニ討議シタルニモ非ズ又一名ノ指令者アリテ其差圖ニ從フニモ非ザレ圧東洋ニ對シテ利害ヲ共ニスル同種類ノ者ナレバ此種ノ人ノ運動スル事跡ヲ察スレバ恰モ一個人ノ方寸ニ出タルガ如キモノヲ見ル可シ即チ彼等ガ今日ノ擧動ハ目的ニ非ズシテ正ニ方便ヲ營ムモノナラン彼等ハ日本ノ國民ガ歐風ノ端ヲ開キタレバ頻リニ之ヲ助長シテ文明ノ實跡ヲ表セシメ其實跡ヲ東洋ノ全面ニ表彰シテ他ノ東大國ヲ誘導シ此國ヲシテ日本ニ對シテ次第ニ競爭ノ意ヲ抱キ其熱度ノ頂上ニ上ルノ日ヲ期シテ始メテ大ニ宿昔ノ企望ヲ遂ケテ大目的ヲ達セントスルノ底意ナラント迄ニ臆測シタリキ蓋シ識者ノ腦中ニ斯ル臆測ヲ生シタルハ亦自ラ多少ノ意味ナキヲ得ズ抑西洋ノ人々ガ千里ヲ遠シトセズシテ東洋ニ來ルハ共ニ仁義ヲ語ラントスルガ爲ニアラズ唯尋常ニ利ヲ謀ラントスルニ在ルノミ西洋人ハ利ノタメニ東洋ニ來ル者トスレバ其將ニ來ラントスルノ初ニ當テ東洋諸國中人口多クシテ版圖洪大ナルハ何國ナルカ沃野千里遺利最多キハ何國ナルカ今後通商上ニテ共ニ大利ヲ語ル可キハ何國ナルカト先ヅ其胸算ヲ定メタルヿナラン胸算既ニ定テ眼光ノ注ク所ハ何國ナルヤ問ハズシテ支那帝國ナルヿヲ知ル可シ西洋人ガ斯ル目算ヲ抱テ支那ノ海邊ニ來リタルハ西暦千五百十六年元ノ忽必烈ノ治世ニ始マリ當時ハ葡萄牙人ノミ專ラ其貿易ニ從事シタリシガ千六百年代ノ初メ荷蘭人來リテ之ニ代リ其後百餘年英佛諸國ノ人々モ亦陸續踵至スルヿトハナレリ然ルニ支那ハ固陋ノ國ニシテ西洋人ヲ見レバ之ヲ嫌忌シ腥膻ノ西夷近ツク可ラズトテ動モスレバ之ヲ擯斥セントスルノ有樣ナリ廣東寧波等ノ支那人ハ西洋人ニ接スルヿ日久シキガ故ニ貿易ノ一点ニ至テハ或ハ事ヲ與ニスルヿアル可シト雖圧西洋ノ品物トアレバ兎角内地ノ人氣ニ合ハザレバ支那人モ其國産ノ交換トシテ西洋尋常ノ製品ヲ受取ラズ唯銀貨ノミヲ企望スルヨリ西洋ノ銀貨一時東洋ニ奔注シ歐洲市場ヨリ當ヲ銀貨ヲ引キ去リタルノ一原因トナルニ至レリ勿論阿片貿易ノ盛ニ行ハルヽニ至テハ西洋人モ製品ヲ以テ支那産ニ換フルノ機會ヲ得タリト雖圧支那内地ノ交通ハ未タ其便ヲ得ズシテ商業ノ區域甚ダ狹ク固陋ノ儒者官吏等モ兎角西洋人ノ妨碍ヲナシ道光阿片ノ一擧ニモ及ビタル始末ナレハ支那ノ人多ク地大ナルニ比較シテハ西洋人モ未タ胸算通リノ利ヲ占ムルヿヲ得ズ是ニ於テカ窃ニ一策ヲ案シ畢竟當分ノ儘ニテハ充分ノ企望ヲ達スルニ由ナシ別ニ大ニ支那人ヲ警發シ其機ニ乘シテ初志ヲ大成スルヿ肝要ナリ而メ差當リ其一策ト云フハ日本ノ開進ヲ促シテ之ヲ支那ノ刺衝トナシ日本ニテハ鐵道モ敷設シ電線モ延長シ軍艦銃砲モ西洋式ヲ採用シ駸々乎トシテ日ニ進ミ其底止スル所ヲ知ラズ同シク東洋ノ國ニシテ日本ノ進歩ハ此ノ如シ支那モ亦袖手傍觀ス可ラズトテ隣國ノ實況ヲ指シテ其羨望ノ心ヲ導クヿ是ナリ其時ニ至ラバ支那モ徒ニ之ヲ看過スルヲ得ズ進ンデ西洋人ニ依頼シテ文明ノ利器ヲ採用スルニ至ルヿ明白ナリ我々多年ノ利心ヲ達スルハ此策ノ右ニ出ヅルモノナシトテ暗々裏ニ日本ノ開進ヲ助長シタルノ意味ナシトモ云フ可ラズ譬ヘハ嘗テ老商ノ談ヲ聞クニ固陋質素ナル金滿家ニ向テ其品物ヲ賣リ付クルニハ正面ヨリ珍器奇貨ヲ衒フタリトテ決シテ其購買心ヲ動スニ足ラス素知ラヌ顏ニテ先ツ其東隣ニ至リ勉メテ之ニ品物ヲ賣リ付ケ機會ヲ伺フテ更ニ以前ノ守錢家ニ行キ大ニ其家内ニ吹聽シ東隣ノ令嬢ハ珊瑚釵ヲ調ヘタリ奥方モ亦鼈甲櫛ヲ注文シタリ又ソノ主人ガ新製ノ洋服ハ文明國ノ紳士タルニ愧チズ杯トテ窃ニ其羨望ノ心ヲ挑發スレバ家内一同既ニ東隣ノ近状ニ注目シテ漸ク之レヲ慕フノ際恰モ此ノ吹聽ニ逢フテ一家ノ購買心ハ益動キ固陋質素ノ頑翁モ亦之レヲ制スルニ由ナク括囊漸ク開キテ家人ノ望ニ從フニ至ル可シト右ハ老練ノ商人ガ質素ノ金滿家ヲ誘フテ其利ヲ占ムルノ一手段ナルガ西洋人モ亦此故智ヲ襲キテ徐ニ東洋ノ巨利ヲ領有セント欲スルノ思念アリシニ非ザルナキカ支那ハ國富ミ地廣ケレ圧固陋退守世間ノ裝飾ヲ羨ムノ念ナク自ラ是レ東洋ノ一守錢家ナリ西洋人ガ此守錢家ヲ誘フテ家人ノ輿論ヲ變セントスルニ先ヅ東隣ノ日本ニ向テ頻リニ文明ノ器具ヲ賣リ付ケ其外觀ノ整頓スルヲ待テ大ニ之ヲ吹聽シ其評判ヲシテ次第ニ支那ノ耳朶ニ觸レシメタルハ其ヲシテ漸ク日本ノ擧動ニ注目シ又之ヲ羨望シ遂ニ其金庫ヲ傾ケシムルノ深意ナルガ如シ然ルニ西洋人ノ企望空シカラズ維新以來我邦ニテハ社會万般ノ事物皆之ヲ西洋ニ資リ政治法律學問商賣ハ申スニ及ハズ鐵道電信ノ工事モ既ニ其端ヲ開キ軍艦銃砲ノ類モ亦西洋新式ヲ取捨シ駸々乎トシテ文明ノ進路ヲ快奔シ來リタル其勢ハ古今世界類例ヲ見ズ且ツ其文明ノ利器ヲ挾テ東洋ノ先導者ヲ自任スルノ勇氣ヲ顯ハシタレバ果シテ然リ支那人ハ此有樣ヲ聞見シテ漸ク日本ノ擧動ニ注意シ又之ト競爭スルノ念ヲ發シ日本ニテハ鐵道ヲ敷設シタリ支那モ亦之ヲ敷設セザル可ラズ日本ニテハ電線ヲ延長シタリ支那豈ニ之ヲ架セザル可ケンヤトテ頻リニ文明ノ工事ヲ起シ其他軍艦銃砲ノ如キモ年々之ヲ西洋ニ注文シ數年以來ハ數多ノ鐵艦ヲ新製シ既ニ進水シタルモアリ或ハ目下製造中ナルモノモアリ而メ其支那ノ依頼ニ應シテ新規注文ノ器具ヲ調達スルハ獨リ西洋國人ニシテ利益ハ固ヨリ其專有スル所ナリ今後支那ニテ更ニ内地ノ交通ヲ開キ鐵道電信ヲ延長シテ貨物運搬ノ便利ヲ増スヿアラバ西洋人ハ獨リ其工事ヲ請負フノミナラズ大ニ通商ノ區域ヲ擴メ十八省中ノ商利ハ悉ク其囊中ニ集マルヿトモナラン而シテ彼ノ西洋人ガ支那ヲ誘フテ此ニ至ラシメタルハ先ツ日本ノ開進ヲ促シ之ヲ目前ノ刺衝物トシテ其羨望ノ念ヲ挑發セシニ在ルモノヽ如シ然ラハ則チ西洋人ガ土地小ニ商利薄キ日本ニ向テ殊ニ意ヲ致シタルモ畢竟ハ本ニ爲ニスル所アリシナランカ我輩曾テ碁ヲ善クスル者ヲ見ルニ其初緩々落子恰モ意ヲ經ザルガ如ク然リ故ニ傍人動モスレバ以テ閑手トナセルニ其黑白盤面ニ滿チ攻防將ニ酣ナラントスルニ及ンデ曾テノ閑手ハ則チ今ノ急手タルヲ發明スルヿアリ西洋人ハ東洋ノ全局ヲ見テ豫メ着手ノ順序ヲ考ヘ先ヅ力ヲ閑地ニ用井タレバ一時傍人ノ怪訝ヲ來シタリト雖圧其閑地ニ着手シタルコソ却テ急要ノ術ニ注目シタルナリ我輩ハ明治ノ初年我邦ノ識者間ニ西洋人ガ故ラニ日本ノ開進ヲ助長スルハ他日支那ニ事アラントスルノ底意ナラントノ臆測アリシヲ追懷シ今日ニ至テ更ニ東西ノ實勢ニ照シ來リ識者ノ先見果シテ空シカラザリシヲ知レリ而シテ其先見ノ空シカラザリシハ果シテ東洋ノ幸ナル歟不幸ナル歟我輩ハ敢テ之ヲ言フヿヲ欲セズ讀者自ラ斷ジテ可ナリ

雜報

○古墳　今般京都府下山城國宇治郡北花山村字遍照塚と唱ふる古墳を　桓武天皇皇孫遍昭僧正御墓に、今國葛野郡宇多野村字阿彌陀塚と稱する古墳を　鳥羽院天皇皇女暲子内親王御墓に、大阪府下大和國宇智郡御山村字親王塚又シノヲ塚と唱ふる古墳を　光仁天皇皇子他戸親王の御墓に御決定相成となる由

○觀兵式指揮官　去る二十六日近衛都督陸軍中將彰仁親王は來月三日天長節の觀兵式諸兵指揮官仰付られたり

○シュフエルド氏の意見(昨日の續き)　又支那人が外國人に對するには其好惡に維彼の區別を立ることを爲さぬして苟も外人を疾視する以上は其英人佛人たると問はざるや必せり近頃合衆國政府が支那役夫の輸入を禁じたる法例を設るは大に支那人の頭上に影響を及ぼしたることなるべし又歐洲各國が支那に對する政略も隨分是に讓らざるのみか尚甚しきの影響を支那國に與へたる者なるが故に到底支那人種と白皙人種とは其間の隔壁深くして相容るる能はざる者と云べしされは目下支那人が佛人を疾んで開戰にも立至らんとする念慮にして一變せば支那の開港場に如何なる兇變を生ずるやも測り難し彼支那人が相聚して一揆を起さんとする時は其勢猖獗、彼の官府の威光を恐れざるのみならず之に敵抗するとも辭とせざるが如し例せば上海の市場は世界の貿易にて第五の座を下らざる開港地にして該地居留の外人は其數僅に五千なるに背後には數百万の支那人山の如く群を成し一揆とれへば五千の外人死地に陷るの外なかるべし然る其生命財産を保護して支那人の乱暴に罹ることなからしめんには須く揚子江頭に絶えざる數艘の軍艦を碇泊せしめざる可らず其軍艦は必しも新製造なると要せず其大砲も敢て巨大なるに及ばぬも唯該艦を指揮する士官水兵の機敏に隨て外人と親睦し支那人の凶手に罹る無からしむる迄にて足れり且又萬里の本國を去て遠く支那の港灣に碇泊し而して其港口に自國の軍艦一艘もあらずしては外人決して安心を得ざるべし况や支那の外國貿易は凡そ六分通り英人